



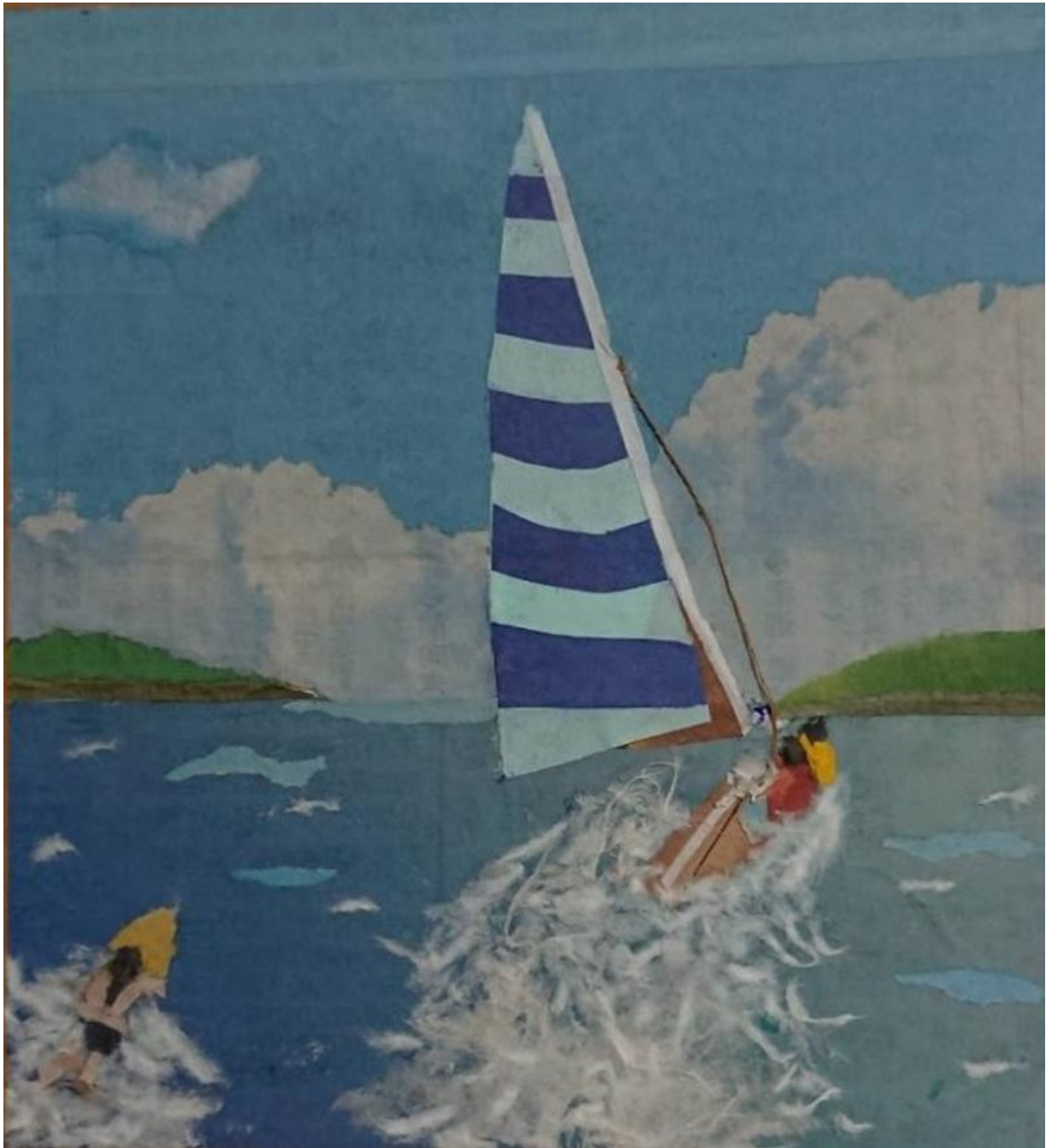
黒田重雄 「湖の朝～クイーンズタウン NZ～」 F6 (水彩)

作者コメント

シンガポール駐在時代に行ったニュージーランド南島旅行の一コマです。
朝の斜めの光が手前の木々の葉に。葉の光と影の濃淡に朝の雰囲気を感じました。
遠くの間々や雲の流れと手前の湖のさざなみに奥行き感を出せていれば嬉しいのですが。

喜田コメント

ニュージーランドの早朝の湖の作品、とてもいい感じです。狙い目の「朝の光を木々の葉っぱの陰影で感じさせる、という試み」は相当高度なチャレンジですね。
私の感想はこの作品の主人公は残雪の山岳と湖水です。斜めに流れる雲の流れと、湖水のさざ波がこの作品に爽やかな旋律とリズムを与えています。これによって空気感と第 2 の狙いの「奥行き感」が十分出ていると思います。
手前の大きな木は近景であります、この作品においては、大きな一役を担っています。つまり、作者が意図したように、しっかりと描きこんだ、この木の存在によって作品の遠近が何 Km にも広がったと思います。
この作品は手の入れようのないほど完成度が高いのですが、強いて欠点をいえば、遊びの無いところでしょうか(笑)。隅から隅までスキがなく、美しく爽やかな作品ですが、どこかにちょっと遊びがあって、観る者に微笑みを与えることも大切です。



月川りき江 「若者の夏」 16.5cmx15.0 cm (ちぎり絵)

作者コメント

8 月は、海 と決めていましたが、新聞に思うような雲がなくて、困っていました。最近、力強い雲が新聞にでましてやっとできあがりました。新聞には真っ白がないので、波は懐紙を使いました。

喜田コメント

まず「若者の夏」というタイトルがとっても気に入りました。 ヴァカンスに若者がヨットを楽しんでいる。高くて青い空と夏の雲(積乱雲)のコントラストが素晴らしい。海と波の表現も面白いし、何よりヨットの帆のストライプの柄がこの作品を「びしっと」締めています。ヨットの二人の姿も微笑ましくて好ましい。改善したらよいと思う点は以下の 3 点です。
①走るヨットが作る白波を少し整理する。 ②水平線を明確に入れる。 ③左下の小さなモータボートに代わりに、少し上方に横向きの手漕ぎボートを入れる。



武智康子
「ブルーインパルス」
F4（水彩）

作者コメント

オリンピック開会式の1週間前、2日前、当日の3回、我が家の上空をブルーインパルスが轟音と共に飛びました。カラーのスモークが出たのは、当日のみです。とてもきれいだったので、我が家のベランダから撮影した写真を見て、描いてみましたが、なかなか上手く描けませんでした。大空を描くのは難しいです。因みに五輪のマークは、絵の左下隅に描かれました。

喜田コメント

7月23日から8月6日まで五輪が開催されました。この作品は時節柄ぴったりの思いがけないモチーフです。家々の屋根を出来るだけ下方に抑え、画面をほぼ全部、空にした構図がとても奇抜です。6機の飛行機が5色の煙を吐きながら急降下している風景には下部に屋根があってこそ臨場感を感じられるので、この構図の試みは成功したと思います。また、空の描き方(下方が淡く、上空に行くほど青くなる)も、紙の白を残した雲の形・配置も面白いと思います。改善したい点は下記2点です。
①このままでは飛行機が地上に突っこむ感じがします。先頭の1機～2機の機首を上げてほしい。②煙の形を研究してほしい。③もう少し時間をかけて作品を追及してほしい。



竹前義博 「入道雲」 F6 (水彩)

作者コメント

田舎ではウォーキングの日々ですが、途中、大きく立ち昇る入道雲が目の前に迫ります。刻々、姿・形が変化し、見ていると時間が経つのも忘れず。

空いっぱいになり、存在感がある入道雲を描くのは難しい。

喜田コメント

竹前さんの田舎は長野県須坂ですよね。信州は日本で一番、厳しい山岳と美しい山並みがあり、水も清らかな、水晶のようなところ。そういうところでは夏の積乱雲は雄々しいエネルギーと形を持っています。竹前さんはその積乱雲(入道雲)の魅力に惹かれて描いたこの作品は、竹前さんが感じたと同じような感動を、観る者に与えてくれます。

この作品も山が2割、空と雲が8割と極端に空の面積が多い作品です。

まず、雲と空を支える山並みは強く、面白く描かれています。遠くの山は紫色に、近くの山は深い緑に描き分けています。本当は山岳らしいシャープな形が好ましいのですが、実際はこの作品に描かれたように、なだらかな山なのでしょうね。しかし、遠くに小さく、信州風景と分かるシャープな山を1つか2つ、入れるともっと作品が良くなります。

さて、主題の「積乱雲と無限の青空」ですが、画用紙の大半を占めるこの部分はもっと気持ちを込めて描きこんでほしいのです。雲はもう少し陰影を強くして厚みを出したい。雄々しさを表現したい、エネルギーにしたい。画用紙の上に油絵の具のように白の絵具を盛り上がるほど使っており、感動した竹前さんの気持ちはこれで十分に伝わってきますが、、、

天空のブルーは長時間見つめると黒に見えてきます。

そういう気持ちで、もう少し強く描きこんでほしいのです。



筒井隆一
「風船葛(ふうせんかずら)」
F4 (水彩)

作者コメント

種の白っぽいハート形の部分がサルの顔によく似ています。孫たちが小さい時、袋を剥いてよく遊んでいました。花瓶には、「猫じゃらし」と「サマーミスト」を、あしらいました。

喜田コメント

秋の草花を背高のカットガラスの花瓶に活け、周りにも風船葛を散らせた、秋らしいモチーフです。雑草ながら緑色とオレンジっぽくに見える「猫じゃらし」を入れたところが良かったですね。紫色の花弁を持つ花(サマーミスト)がきれいです。

構図は花瓶の位置を中心から少し左にずらせ、卓上に散らせた風船葛の茎の形で全体のバランスを取りました。良いと思います。次に色彩ですが、今回の作品には、7月度の「ミニトマト」で見せてくれた、淡いけれどシャープな色彩の切れ味がありません。花瓶の中の密集した部分の葉を省略も含めて簡素化する。葉の色を「白緑・黄緑・濃緑・赤緑」など描き分ける。卓上に散らせた「葛の袋」ははじける前の黄土色がよい。最後にテーブルは黒色でなく、黄色系・オレンジ系・茶色系、など秋らしい色彩に変更する、など改善点はあります。



遠矢慶子
「向日葵」
F4(パステル)

作者コメント

あなただけを見つめるが花言葉です。

喜田コメント

絵画にとって、構図と色彩は基本中の基本です。この作品は構図も色彩も素晴らしいと思います。「私は真夏の情熱的なヒマワリを描きたいのよ！！」という遠矢さんの気持ちが滲み出た作品です。

構図的には中心に「ヒマワリ」を大きく描き、中心のヒマワリ、小さな背後のヒマワリのバランスも良い。花瓶の下を切ったところも良い。葉や花びらの色が紙面から外に滲み出るような表現も良い。紙面の上下左右に4分割する構図も面白い。

色彩的には上下左右に分割された領域の配色もとても良いと思います。

改善すべき点は、中心のヒマワリの花弁はもっと厚みが欲しい、もう少しだけ描きこんでほしい、ヒマワリの裏心の種の部分も、あと少し描きこんでほしい。よい作品でした。



若林哲史
「朝まだき頃、朝顔の涼気」
F4（水彩+グアッシュ）

作者コメント

弱い朝陽の逆光で薄暗い裏庭に浮かぶ朝顔。微かな木漏れ日と生い茂る葉の暗さが難しかった。

喜田コメント

爽やかな作品ですね。作者が描こうとしている「眼」を感じる作品です。
まず、5輪の朝顔の花の配置と形状と色彩と表現法と雰囲気がとても良いと思います。縦に走る「4本の支え棒」との関係もよく考えられています。次に生い茂る葉っぱですが、下部は陽が届かぬために暗く、上部に行くに従って光を受けて輝き、最上部は眩しくてほとんど葉の形が見えない、こういった制作における考えが作品を良くします。
最近の若林さんの作品は、完全な写実から少しずつ創作が加わり、よい意味での「うそ」が入るようになりました。その一例が「ヒマワリの茎」です。支え棒をぐるぐると回りながら成長したかと思えば、横にはみ出していく、支え棒に頼らず天をめがけて一気に伸びり茎もある。これらの茎の動きが作品にリズムを与え、音楽を奏でるようになります。
改善点、茎の中に地中から吸い上げられた水分が通っていないように見えます。茎の根元から上部に沿って、太さや色合いに変化をつけて生命を吹き込んでみてください。



井上清彦 「善福寺のアオサギ」 A4 (水彩)

作者コメント

モチーフに毎回迷います。

たまたま妻が善福寺川サイクリングをした際、スマホで撮った珍しい鳥を勧めてくれました。

難しそうでしたが、面白いのでこれにしました。この鳥は調べたら、アオサギでした。いつも見るのはシロサギです。体をひねったアオサギのスケッチに苦労しました。

午前 10 時頃の空の青が川に映っているのか、素晴らしい青色でした。

空の青といい、川の青さいつも青色の表といい、青の表現に悩みます。

喜田コメント

私は「アオサギ」を見たことがありません。空の青さや水の青さが「シロサギ」の羽に映った情景を「アオサギ」というのではなく、本当に羽や胸の毛が青いサギなのでしょうか？

さて、この作品ですが、ものすごく面白い作品であります、見る人によって情景が異なる恐れがあります。私は①太い幹に止まったサギを木々や空を透かして見上げた構図、②木々が生い茂る池に古いコンクリートの岸の近くに後ろ向きに立っているサギの構図。

以上 2 通りの情景を想像しました。作者コメントから、多分②なのでしょうね。さて、作品ですが、左右の緑の茂みの表現は井上さん独特の色彩とタッチで描かれ、とても上手く面白く描けています。しかし、空の青が映った水は水底が見えるように描くべきです。

きっと、奥様が撮った写真をよく見ると、池の水底に何かが映っていると思います。

コンクリートの岸の近くにシロサギが立っているのでその脚が見えません。水中に立っているサギの脚と水底を描いて、水面に空の青を映せばとても面白い作品になると思います。そろそろ、「在る通りに描く、から、想像して嘘も描く」に努力をしてみてください。



岡田理子 「真夏の向日葵」 F3 (水彩)

作者コメント

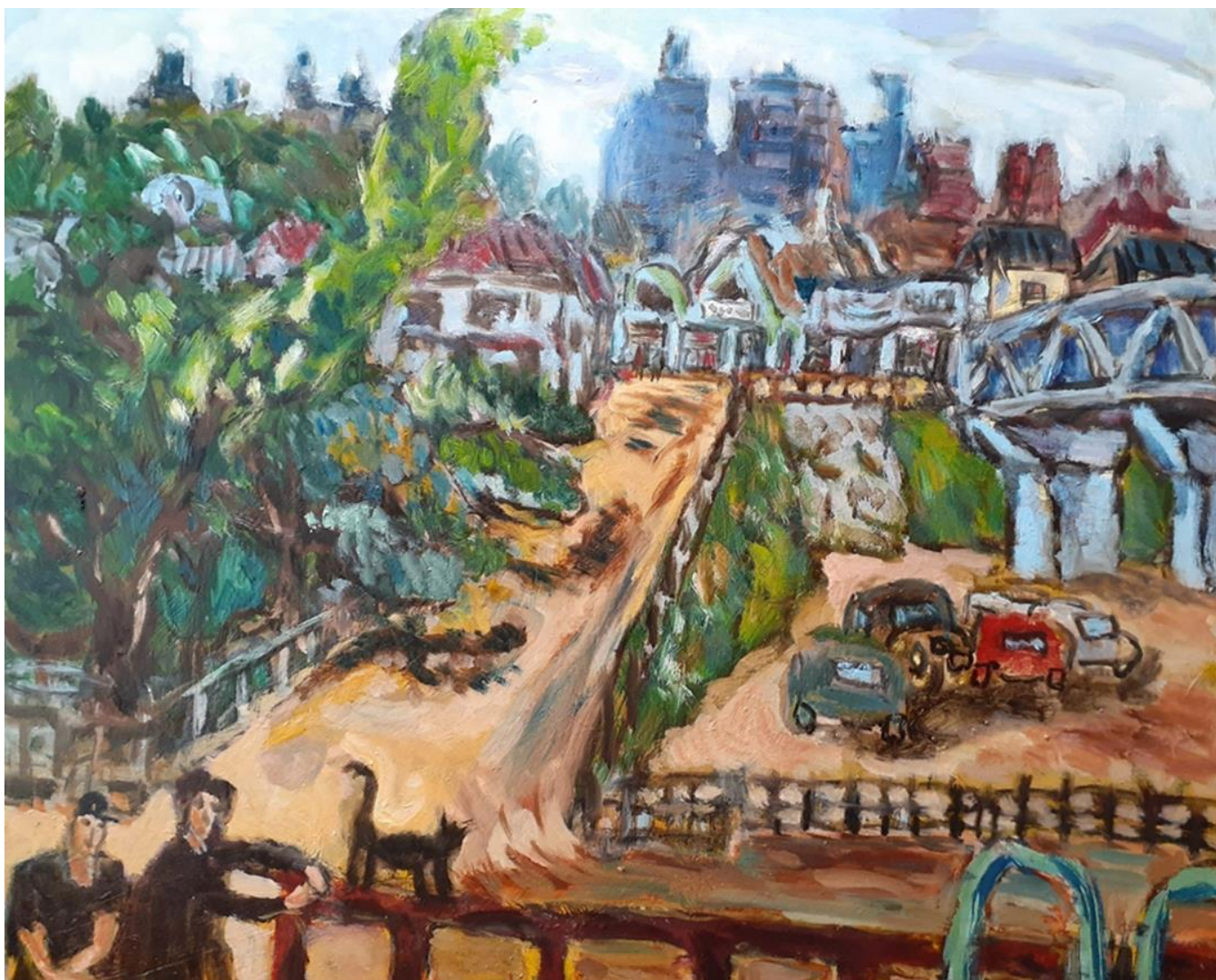
大輪の向日葵が燃えるような夏空に映えてました。夏の暑さが表現出来たら良いのですが。

喜田コメント

岡田さんの感性に満ち溢れた作品です。作品にうまく完成を効率よく表現できるときと、いくら描いても上手くいかない時があります。この作品はきっと短時間で仕上げたものと思いますが、とても上手くいったと思います。

滲みを利用して「黄色・青色・茶色」の3要素だけで、こんなに深みのある「向日葵」が描けるのですね。葉や茎の間に点在する青い斑点、空の青と葉の境界の色のにじみ、2輪のヒマワリの表情、花弁に滲みこんだ空の青はそのままにした見事さ、空の変化(絵具の塊や筆の抜け毛も一役買っていますね(笑))も感性通りで素晴らしい。

時間をかけて追及してもこのような作品は描けません。感性のすばらしさと、時に偶然が重なって素晴らしい作品が生まれます。この作品、大事にしてください。



喜田祐三「東京競馬場前駅からの坂道」F20（油彩）

作者コメント

「私の住む町」シリーズの第6弾です。「東京競馬場前駅」は京王線の支線の終点です。競馬開催日には、駅から競馬場正門に至るこの坂道は人で埋まります(今はコロナで人流がありませんが)。そのため、競馬協会は駅から直接競馬場に渡れる立派な鉄筋の通路を作りました。絵の構図としては、はなはだ面白くない構造物です。その通路の下が広い駐車場になっています。



スケッチブック（はがき大）（色鉛筆）

以上